

補足スライド

『5. 銀行制度と私的所有』の
「要求払預金の特徴」への補足

預金通貨

1. イントロダクション

注記

- 日本の銀行用語では、
同一行内での口座間の送金を振替、
他行の口座への送金を振込
と呼んでいる。
- しかし、ここでは、
同一行内だろうと他行へだろうと
口座間の送金を一言で振替と呼ぶ。
- また、振替としては、
電信扱いの振替を想定する。

預金

- 預金
 :=消費寄託された貨幣
 >つまり、預金者から与かったものだが、
 預金者の要求に応じて（満期日または据置期間を
 設定しない限りいつでもすぐに）同額の現金で
 払い戻しするという約束の下で、
 銀行が好き勝手に運用することができる貨幣。
- 実際には、銀行のサーバのハードディスク上の
 デジタルデータにすぎない。

現金と預金

- 通貨
 := 通流している貨幣のこと
 （購買手段および支払手段）
- 1. 現金通貨
 = 中央銀行が発行する“札”と“玉”
 ※ “玉”については
 名目上、日本国政府（財務省）がこれを発行しているが、
 日銀の依頼で発行している。
- 2. 預金通貨
 = 市中銀行にある要求払預金

要求払預金

- 要求払預金（Demand Deposit）
 - 預け入れ期間が一定期間（定期）ではなく、
 預金者の要求に応じて
 いつでもすぐにオンデマンドで
 現金化しうような預金のこと
 - 1. 普通預金
 - 2. 当座預金

2. 現金での決済

現金で支払う場合

- ジーパン屋とアパレル問屋との企業間取引を考えてみよう。
- ジーパン屋が2000万円分のジーパンをアパレル問屋に卸す。
- 企業間取引で通常、行われている掛け売買を想定しよう。

現金での決済手順

1. ジーパン屋の手からアパレル問屋の手にジーパンが譲渡される。
2. ジーパン屋は2000万円の債権者、アパレル問屋は2000万円の債務者になる。
3. アパレル問屋の手からジーパン屋の手に2000万円の貨幣（一万円札2000枚）が支払われる。
4. これにて決済完了。

現金の欠陥

- しかし、現金は高リスクである。
 - 事故でなくしてしまうかもしれない。
 - 事件で盗まれるかもしれない。
 - 自社の従業員が持ち逃げするかもしれない。
 - etc.
- 従って、現金は高コストである。
 - 保険金が必要。
 - 金庫代が必要。
 - ガードマン代が必要。
 - etc.

3. 預金での決済

仮定

- 話を単純にするため、ジーパン屋もアパレル問屋も同じA銀行に当座預金口座を持っていると仮定しよう。
 - 本当はこんな仮定は不要。銀行間でも電信扱いの振替が行われているから。
 - 銀行内振替でも銀行間振替でもジーパン屋・アパレル問屋にとっては本質的には関係ない。せいぜい手数料が増えるだけ。

預金での決済手順

1. ジーパン屋の手からアパレル問屋の手に
ジーパンが譲渡される。
2. ジーパン屋は2000万円の債権者、
アパレル問屋は2000万円の債務者になる。
3. 債務者であるアパレル問屋が
A銀行に電信扱いで口座振替を依頼する。
4. 銀行が両者の口座残高を書き換える。
5. これにて、決済完了。

債権債務関係の消滅

- Q**なんで決済が完了し、
ジーパン屋とアパレル問屋との
債権債務関係が消滅したの？
- A** ジーパン屋の当座預金口座の残高
(デジタルデータ)が、
ジーパンの代金分の2000万円だけ
増えたから。
- 当座預金は要求払預金だから、ジーパン屋は
今すぐにもジーパンの代金2000万円を
現金化することもできる。

現金化と代金支払（決済）

- Q**現金化するのなら現金が（アパレル問屋が
ジーパン屋に支払う）支払手段なのでは？
- A No!** 現金化はジーパン屋とA銀行との関係。
アパレル問屋は全く関係ない。つまり、
ジーパンの取引とは全く関係ない。
- ジーパン屋は
 - 今すぐ2000万円を現金化することもできるし、
 - 今すぐ1000万円だけ現金化することもできるし、
 - 1年後に現金化することもできる。

預金の振替が通貨の役割を演じた

- 現金化しようとしまいと、その前に、
デジタルデータが書き換わった時点で、
決済が完了した。
(ジーパン屋とアパレル問屋との間の
債権債務関係が消滅した)。
- つまりは、預金という
銀行のサーバのハードディスク上にある
このデジタルデータが
支払手段の役割を演じた。